

## 「アメリカで学びたい事」

大阪大学文学部 4 年 矢島裕章

アメリカで学びたい事。それは主に 2 つある。

まず 1 つ目は、多民族・多文化の中で、人々がどのように関わり合いを持ち生活をしているのか、ということだ。

私は大学で比較文化学を専攻している。「文化」というとなんだか堅苦しいが、その地域に住む人々がどのような人と関わり合いを持ち、どのような生活をしているのか、ということがもっぱらの研究の対象である。

文化について考えるときに、一つ注目したいのが、文化は常に変化し続けているということだ。異なる文化同士が交わるということは、そこにコンフリクトが生まれることも多く、またオリジナルの文化が衰退することにもつながっていく。アメリカの歴史は常にそのような文化の衝突の繰り返しだ。

文化論を考えるうえで、アメリカは面白い事例であり、日本の未来を見据えた時の一つのモデルとなっていくだろう。

もちろん、日本の多民族化や多文化化を諸手を挙げて支持しているわけでもない。しかし、昨今のグローバル化の現状から、ある程度の多民族化・多文化化はもはや避けられない。その避けられない状態の中で、将来あるべき日本のグローバル化を、アメリカを例にして考えてみたいのだ。

加えて、ロスアンゼルス（以下ロス）をはじめ、カリフォルニアには、日本人や日系人が多く住んでいる。アメリカに滞在している彼らの視点から、日本の国際化について話を聞くのも、このことを考えるうえで貴重な体験になるだろう。

2 つ目は観光政策である。

ロスにはアメリカ国内外から多くの観光客が訪れるが、人々がここに惹きつけられる理由を探りたい。

私は、来年大学を卒業し、関西の観光政策に大きく関わる企業に就職する。これまで、大学でも都市政策の授業を受講したり、まちづくり団体と関わりを持ちつつ関西地域のことを考えてきた。関西地域の観光政策を今後どのように考えていくのか、というのは私の今一番の関心ごとだ。

ロスはこれらを学ぶ上で非常に優れた都市である。ロスは大阪（関西圏）と同じく国内第 2 の地域である。第 2 位であっても、映画産業や商業の拠点として栄え、ニューヨークとは異なった独自性があり、多くの観光客が訪れている。

大阪に住んでいると、また、昨今のニュースを聞いていると、東京と大阪が対比して語られ、大阪も「東京のように」なるべきという論調が多く見受けられる。しかし、大阪に必要なのは「大阪らしさ」であり、同時に関西に必要なのは「関西らしさ」である、というのが私の考えだ。歴史が古く、独自の文化が各地域ではぐくまれているこの関西圏において、観光政策を考えることは地域の将来を考えるうえで重要である。

今後の関西地域の観光政策を担っていくのが私の役割であると認識している。将来の関西のために、ロスで学べることは多くあるはずだ。

以上、アメリカで学びたいことを主に2つ挙げたが、実は、アメリカに行くのはこれが初めてではない。

昨年の半年間、アメリカのNPOが主催するプログラムに参加していた。世界中から集まった100名の仲間と行動を共にしながら、アメリカ、ヨーロッパ、メキシコの7カ国16都市を半年かけて回った。各都市ではホームステイやボランティア活動をし、現地の人々との交流を通じて国際理解を進めていったのだ。

この半年間のプログラムの中でアメリカには最初の2カ月間滞在していた。コロラド州とフロリダ州を訪問したが、慣れない生活に加えて言語・文化の壁が高く、毎日のプログラムをこなすのがやっとなのであった。もちろん、楽しい事もあったのだが、アメリカのその時の思い出はつらく、大変なものが多いのが実際である。

その後のプログラムこなす中で、感じていた壁は次第に解消されていった。のちに訪れたヨーロッパやメキシコのプログラムでも大変な事はもちろんあったが、それでもその中に楽しさを見出す術を次第に身につけていった。

メキシコのプログラムを終え、日本に帰国するときのことだ。メキシコシティからロスアンゼルス国際空港経由で帰国したのだが、ロス空港での数時間の滞在はした数時間は夢のような体験であった。

英語がきちんと通じる。歩いている人は皆、髪・目・肌の色が違う。この「当たり前アメリカ」が、メキシコでの滞在を終えた後は非常に新鮮に感じたのだ。

ロス空港を離れる時、いつかこの地に戻ってこようと誓った。

プログラムの最初にアメリカに滞在した2か月間は、つらく、大変な思いもたくさんした。アメリカを完全に好きになれないまま結局その地を離れてしまったことを非常に悔やんだ。

文化や言語の壁を感じなくなった今なら、アメリカをとっても好きになれるだろうし、今までよりもっと知りたいと心から思える。

ロスアンゼルス研修で多くの事を得て、来年度以降、関西の地にその得たことを還元していくことを楽しみにしている。